

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 2024年5月24日

事業所名 らいふテラス豊中駅前

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	1	衝立を利用し空間を分けている。	身体が大きくなった小学生には少し狭く感じさせてしまうかもしれないので、常に空間を整理整頓する。
	2	職員の配置数は適切である	5	0		
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	5	0		
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	0	終礼時にその日の出来事、集団活動の振り返りを行い、次回に活かしている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	0		保護者様から頂いた意見を職員で共有し、今後の運営に活かせるよう、職員間で話し合う。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	0		
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	4		第三者による外部評価を行うことを検討する。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	0	定期的に研修の機会を設けている。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5	0	子どもの課題を保護者と共有し、個別支援計画を作成している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	0		標準化したアセスメントシートを準備し、取り組んでいる。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	5	0		
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	0	インターネットやInstagram、ブログ等を参考にしている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5	0	休日や長期休暇は利用時間が長いので、公園に行き思いっきり体を動かしたり、SSTをねら	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	5	0		・個別活動では職員と1対1で行っている。 ・集団活動は発達年齢によってグループと活動内容をわけて実施し、一人ひとりの課題に合わせたプログラムを提供している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	0	朝礼でその日の支援内容や送迎の打ち合わせ、確認を行っている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	0	終礼時その日の振り返りや翌日の打ち合わせを行っている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	0		
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5	0	モニタリングでは、療育の様子を動画で見てもらいながら、子どもの成長や課題を共有している。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	5	0			

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	/	/		全児セルフプランの為対象児なし。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	5	0		お迎え時に学校や学童保育からの申し送りは必ず保護者に伝えるようにしている。また、お迎え時間や利用日などの変更点は、保護者から学校や学童保育に連絡を入れてもらっている。年間計画や行事予定などの情報共有は特にないが、必要時には伝えている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	/	/		対象児童なし。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5	0		保護者様からご希望がある場合実施している。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	/	/		児童の対象が小学3年生までのため、障害福祉サービス事業所へ移行はしていないが、卒業する児童の引継ぎは行っている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	0		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	5		交流する機会を検討する。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	1	4		協議会に参加できるよう、日程を調整していく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5	0	日々連絡帳や送迎時に、その日の様子やエピソードを伝えている。	保護者様とのよりよい関係をつけるために、送迎時に話す機会を増やす。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	3	2		モニタリングや面談で子どもの困りごとに対してのアドバイスは行っている。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5	0		契約時に丁寧に説明している。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	0	1人で悩み事を抱え込まず、すぐに連絡をもらえるように保護者に伝えている。	保護者様から相談希望があればすぐに面談を行い、対応している。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	5		いろいろな考えの保護者がいるので、保護者会を開催するか検討していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5	0		
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5	0	デイでの様子や集団活動の取り組みをインスタグラム、リタリコ発達ナビで紹介している。	会報は発行していないが、活動概要や必要な情報は連絡帳と口頭で保護者に伝えている。
	35	個人情報に十分注意している	5	0		個人情報を扱う書類は、鍵付きの書庫で保管している。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5	0	口頭や電話、連絡帳などの手段で必要な情報が保護者に伝わるようにしている。	保護者の特性も考慮し、家庭支援を行っている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	4		利用児と周辺散歩することがあり、近所の方に挨拶をしたり、公園で地域の子どもたちとあそぶこともある。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	5	0		職員間は周知しているが、保護者にはできていないものもあるので周知する必要がある。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	0	月に1度避難訓練を実施している。	火災、地震、不審者対応、水害等を想定して避難訓練を行っている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5	0		虐待についての研修を行い、虐待防止に努めている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5	0		現在身体拘束を行う可能性のある子どもの利用はないが、身体拘束が必要な事例などを職員間で話し合う機会を持った。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	1		
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5	0		大きい事故を防ぐためにも、普段からヒヤリハットを作成し、終礼などで情報共有している。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。